

# 瀬戸臨海実験所 地震発生時の避難マニュアル

## I. 避難の原則

- ・高台(南方記念館)までの避難経路をあらかじめ確認する(IV項参照)。
- ・震度4以上、それ未満でもゆっくりとした揺れが長く続く地震に要注意。
- ・津波は、地震発生後わずか2～3分で海岸に到達する場合がある。したがって、地震が起きたら直ちに避難を開始する。

## II. あらかじめ携帯電話に設定・登録を推奨するもの

### ①緊急情報自動配信サービス(以下のサイトを参照し、携帯電話を設定する)

**Docomo 緊急速報** <http://www.nttdocomo.co.jp/service/safety/areamail/>  
**au 緊急速報** [http://www.au.kddi.com/notice/kinkyu\\_sokuho/](http://www.au.kddi.com/notice/kinkyu_sokuho/)  
**SoftBank 緊急速報** [http://mb.softbank.jp/mb/service/urgent\\_news/](http://mb.softbank.jp/mb/service/urgent_news/)  
**海上保安庁 緊急情報** <http://www7.kaiho.mlit.go.jp/micsmail/reg/touroku.html>

### ②緊急連絡先

実験所職員宛Eメール: [emg@seto.kyoto-u.ac.jp](mailto:emg@seto.kyoto-u.ac.jp)  
事務室宛電話番号: **0739-42-3515**  
夜間内線電話番号: **20**

\*災害時は回線の混雑によって電話が通じにくいことがある(メールの方が通じやすい)。

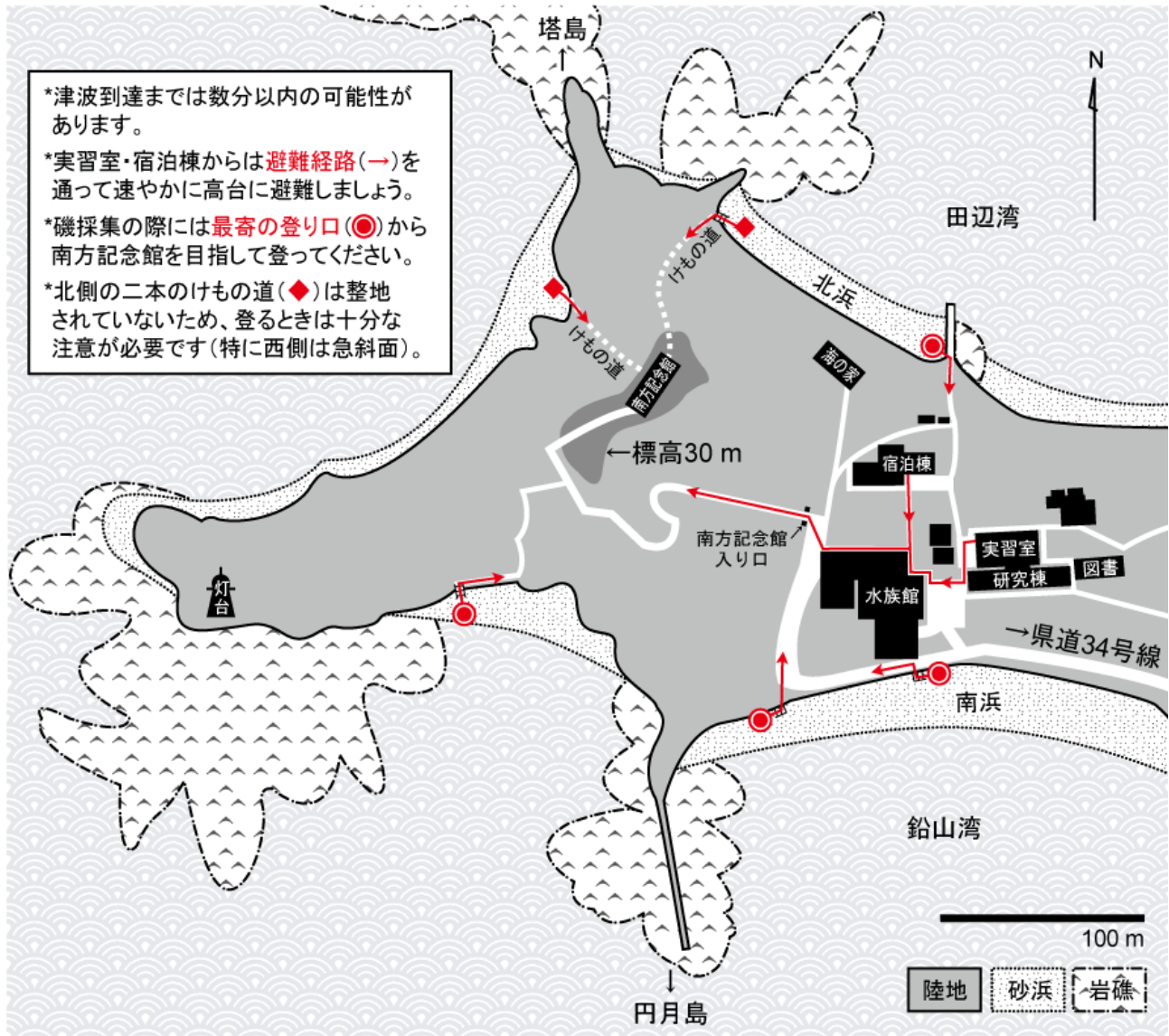
## III. 避難手順

①**情報収集**: 緊急情報の自動配信サービス(II項参照)の利用などによって地震発生後に津波のおそれがあると判断される場合には、避難原則に基づき各自で速やかに避難を開始する。

②**避難と誘導**: 実験所職員の指示に従い、速やかに高台(南方記念館)へ避難する。実験所職員不在の場合は、避難経路に従い、実習生など同行者を誘導する(IV項参照)。火の元・崩落の危険がある場所には近づかない。研究棟の実習室と外来研究室、および宿泊棟ではヘルメットと防災用品が利用できる。

- ・**負傷した場合**: 地震発生後、負傷や重い物の倒壊によって身動きが取れない場合、大声を出す、あるいは発煙筒などの使用によって、実験所職員を呼ぶ。
- ・**火災発生の場合**: 津波による避難の必要がない場合で、火災が発生した際、不用意に近づかず、速やかに建物外に避難し、実験所職員に連絡する。

#### IV. 地震発生時の実験所周辺における避難経路



##### 【館内における避難】

- ・実習室: 実習室西側の扉(外に面している方)を出て、まっすぐ水族館へ移動→水族館の右手方向に壁に沿って移動し、裏道まで出る→前方右手に見える南方記念館入り口から、坂道を登る。
- ・宿泊棟: 表玄関を出てまっすぐ水族館へ移動→突き当たりの角を壁に沿って右に移動し、裏道まで出る→前方右手に見える南方記念館入り口から、坂道を登る。

##### 【野外における避難】

- ・北浜: 宿泊棟裏のゲートを通り、宿泊棟まで移動→宿泊棟からの避難経路に従い避難する。
- ・南浜: 北側の道に出て、西側に道なりに移動→南方記念館入り口から、坂道を登る。
- ・南西の浜: 階段を使って壁の上に登る→道なりに南方記念館まで登る。
- ・北浜西側と北西の浜: 獣道を登ることができるが、整地されていない。特に北西の浜からの経路は急斜面なため、要注意。

##### ！避難時の注意点！

- ・建物の横を通る際は、屋根や壁の倒壊に注意しつつ、壁から離れて移動する。
- ・午後17:00-午前9:00と休館日(毎週木曜日)は南方記念館入り口のゲートが南京錠で閉じているので、その時間帯に避難する場合は宿泊棟入口の鍵と同結した鍵で開放する。
- ・夜間は手近にある懐中電灯を携行する(宿泊棟表玄関には常備してある)。
- ・川沿い、海沿いの道は極力避けて移動する。